

## “コミュニティバスの再編のターゲット”を整理

「犬山市が目指すまちづくり」「公共交通の現状」「市民ニーズの整理」を踏まえ、“コミュニティバス再編のターゲット”を設定し、再編を検討しています。以下のターゲットをできる限り実現できるように努めます。

### 【 コミュニティバス再編のターゲット 】

- |                     |                      |
|---------------------|----------------------|
| ① 都市形成軸の構築に資する路線の導入 | ② 交通空白地・交通不便地域の減少    |
| ③ 運行日数の増加           | ④ 効率的な運行による運行頻度の増加   |
| ⑤ 運行負担金を考慮したサービス提供  | ⑥ 上記ターゲットの実現による利便性向上 |

## 平成30年度の再編では、なぜデマンド方式ではないの？

### ■ 運行方法のあり方を検討

今回の再編では、バス路線の見直しに合わせ、バス以外の運行方法（デマンド（タクシーなどの車両を使って利用者のニーズに応じ電話予約などを通して乗り場や行き先を希望できる運行方法）、自家用有償旅客運送など）について、メリット・デメリットを整理し、どのような方法が犬山市にとって望ましいか事前に検討しました。

自家用自動車による有償運送は、路線バスやタクシーなどの公共交通が提供されない地域に限定して認められる方法ですが、犬山市には路線バスもタクシーもあるため、犬山市では導入できません。また、地域ボランティア（無償）による運送は、運転手の確保などが高いハードルとなります。

デマンドによる運行については、前日までの予約が必要になり、予約の煩わしさから利便性が低下すること、車両の台数が限られているため利用できない場合があること、利用者や市の金額負担がバスよりも増えることなどのデメリットが考えられます。

現在のバス利用状況を分析すると、各地域から犬山駅または総合犬山中央病院への移動が大半を占めており、年間で84,000人を超える多くの皆様にご利用いただいております。行き先や利用者がまとまっているので、バスの方が効率的な運行が可能です。

これらの内容を踏まえ、同じ目的地へ多くの利用者を安全に輸送可能な定期定路線型のバスによる移動サービスの提供を継続することとしました。

なお、今後の人口動向や社会経済情勢、利用実態等の変化が生じた場合には、需要や特性に応じて適切な運行主体や運行形式（デマンド交通を含む）の採用も検討してまいります。

## 再編に向けた説明会を開催します！

平成30年度に再編するコミュニティバスの検討経過や基本方針等について、説明会を開催します。詳しくは地域安全課までお問い合わせください。

【日 時】平成29年11月7日（火）午後7時から

【場 所】市役所2階201・202会議室

皆様のご参加をお待ちしております。



## コミュバス通信 ～第3号～(改)

発行日 平成29年11月1日  
発行者 犬山市地域公共交通会議事務局  
連絡先 犬山市市民部地域安全課  
Tel 0568-44-0347  
Mail 010400@city.inuyama.lg.jp

犬山市では、既存の公共交通機関が存在しない地域の住民や自動車を運転できない高齢者等の移動手段を確保するため、犬山市コミュニティバスを運行し、年間約85,000人（平成28年度）にご利用いただいております。

一方で、道路が狭隘でバスが走行できない地域の存在、曜日限定の運行、路線の長大化による限られた運行本数等の課題が挙げられています。これら課題を解決し、みんなが利用しやすいコミュニティバスとなるよう、犬山市では、平成30年度のコミュニティバスの再編を目指し、検討を進めています。

この「コミュバス通信」は、平成30年度の再編に向けての経過を市民の皆様にお知らせするため、第3号（改訂版）として発行し、今後も随時発行していきます。

なお、再編に向けての、ご意見やご要望は、電話・Eメール・手紙等々、いつでも地域安全課にて受け付けています。

## 第3回犬山市地域公共交通会議を開催！

### ■ 平成30年度に向けた再編案を議論

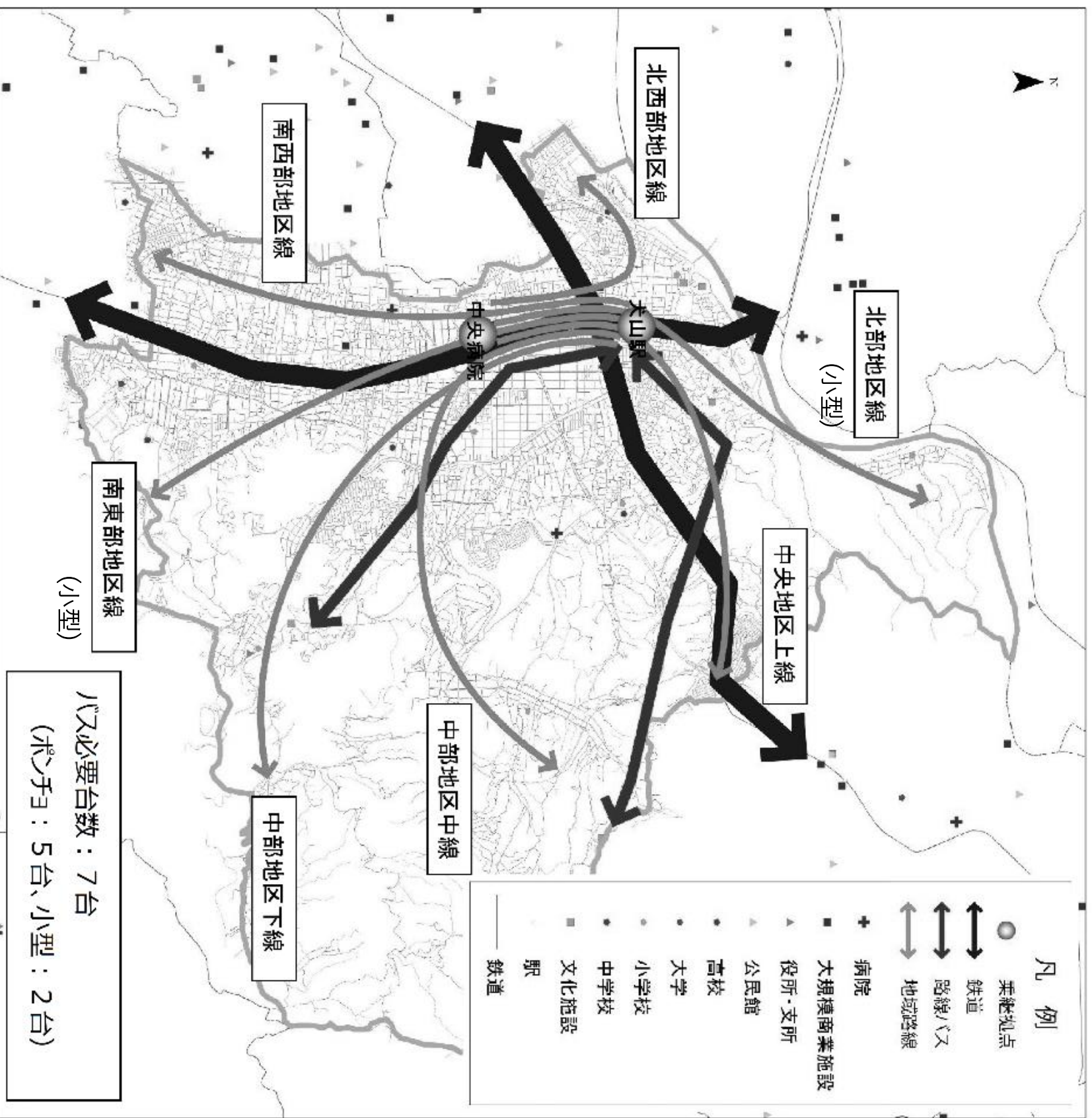
平成29年10月2日に第3回目犬山市地域公共交通会議が開催されました。会議では、平成30年度のコミュニティバスの再編（案）について、協議を行いました。

委員からは、「バス7台体制・乗り継ぎ無しの案を中心として細部を検討すれば良い」「イメージ案の折衷案もある」「車両を増やし、利便性を良くしてほしい」等の様々なご意見を頂きました。

### ■ 会議での主な質問や意見及びその回答

- 犬山市の方針を教えてください。市として負担金が増えてもいいのか。AからD案の折衷案もある。  
⇒【事務局回答】再編のターゲットの達成を目指し、負担金が増えてでも利便性を向上させたい。
- 何の為に再編し、何がどのように良くなったら良いのか？  
⇒【事務局回答】利用者からは「毎日運行」を望む意見が多いので、これに応え利便性を高めたいと考えている。
- 再編後、バス停がどれだけ増えるのか。市の負担が増えるのは、妥当だと思う。  
⇒【事務局回答】バス停は、現在の位置を踏襲しつつ、利用状況により、新設や廃止を検討したい。
- 負担金が増えても利便性を良くするというのであれば、車両を増やし、利便性を良くすれば良い。
- 平日だけ毎日運行にするのか、土日も含めて毎日運行にするのか。  
⇒【事務局回答】再編後も月曜日から金曜日の平日運行を予定しているが、土日も含めて運行曜日を検討している。
- 狭い道や進入禁止の道路が多いので、現行の車両を基本としつつ、小型車両は2台くらいが良い。
- 平成30年度再編（案）の方向性について、D案を中心として細部を検討していくということで良いと思う。

## 犬山駅と医療機関等へのアクセスを重視した再編イメージ案



特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>• コミュニティバスに対する一番のニーズである毎日運行を実現させるために考案</li> <li>• 犬山駅、総合犬山中央病院へは全路線において直接行くことができる</li> <li>• 現行路線を基本とするため、路線再編による利用者への影響が小さい</li> <li>• 毎日運行が実現できる</li> <li>• 交通空白地の減少</li> </ul> <p>(北部地区線及び南東部地区線において、小型車両を導入した場合)</p>
メリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運行負担金が増える</li> <li>• 増便効果は低い</li> </ul>
デメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 運行負担金が増える</li> <li>• 増便効果は低い</li> </ul>

★協議の結果、上図に示すとおり、バス7台案を中心に再編を検討することで合意されました。

★今後、この案を基にルートやバス停位置、ダイヤ等の検討を進めてまいります。